

第36回 万葉集を楽しむ会@花奈雅和 活動報告書

開催日: 令和8(2026)年2月18日(水)10時~12時

場所: プララ杉田505

参加人数: 7名(他教室を入れて14名)



テーマ: ツバキ(椿)

チガヤ、シイ地味な植物が続いたので、今回は花の椿がテーマです。とはいえ、その名前は厚葉樹(あつばき)、艶葉樹(つやばき)などの厚い艶のある葉からきたもので、日本人が「花」以外のものにも注目していることが感じられます。また、ツバキは万葉集に9首詠われていますが、古今集にはゼロでまさに「万葉集の花」と言えるとのこと。

今回も柿本人麻呂のたたり(?)で、ほどけた靴紐の先が羽田空港の動く歩道(ムービングウォーク)に入り、つんのめって腰痛になった話から始まりました。(萩・石見空港では柿本人麻呂の歌碑があり、その空港からの帰り)

本日の歌の前に先生の大好きなツバキの歌を高校時代のエピソードとともにご紹介いただき、皆で唱和しました。

巨勢山のつらつら椿つらつらに見つつ偲はな巨勢の春野を

01/0054 坂門人足(さかとのひとり)

意味: 巨勢山のたくさんの椿たちよ。春に椿がたくさん咲く巨勢の野を見たいものだ

この歌は口調の良さもあるのですが、今現在の状況を詠むことの多い万葉集のうちでも、秋の季節に翌年の春の満開の椿の花を思って詠んだ珍しいものです。また、坂門人足という有名ではない人が詠った歌が感動を呼ぶのはいかにも万葉集らしいとのこと。

本日の歌

(訓読) 吾妹子を 早み浜風 大和なる 吾を待つ椿 吹かざるなゆめ

(仮名) わぎもこを はやみはまかぜ やまとなる わをまつつばき ふかざるなゆめ

01/0073 長皇子(ながのみこ)

(意味) わが妻を早く見たいと思う 浜を吹く風よ 大和の私を待つ椿にも吹いてくれ、必ず。

.....

(訓読) あしひきの八つ峰の椿 つらつらに 見とも飽かめや 植ゑてける君

(仮名) あしひきの やつをのつばき つらつらに みともあかめや うゑてけるきみ

20/4481 大伴家持(おおとものやかもち)

(意味) 山の峰々に咲く椿すから じっくりと眺めても飽きることはありませんね。この椿を植えたあなた様。

第一首の長皇子(天武天皇の皇子)の歌は奥さんを思う歌。権力闘争の時代に上手に生きて長皇子の生き方とその子孫を、第二首では大伴家持の人間性と、この時代の庭と平安時代の庭の違いなどを教えていただきました。

そして、万葉集の歌体のひとつである**仏足石歌**(575777:一首のみ)は長皇子の息子の智努王(ちぬおう)に関連していることも学びました。

今回は合計、六首の万葉集をご紹介いただきました。

先生の着物と帯留です。どちらも日本原産の「ユキツバキ」です。帯留は珍しい有田焼(作家もの)の椿です。



2月18日は万葉集を楽しむ会の日であり、講義の後は新年会(弁当と飲み物、お菓子など)を予定していて、12月の会の時にみなさんにお伝えし、ご参加いただけることになっていました。ところが「神奈川を楽しむ会」が同じ日に開催を決めたため、楽しむ会の方を優先した人、また、急きょお休みの人もいて、参加者がとても少なくなりました。そのため、近くのレストランでのランチ会に切り変えました。少人数でしたが、おいしいものを食べて近況などを語り合い楽しく過ごしました。

次回(第37回)の万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ

令和8年4月15日(水) 10:00 ~ 12:00 プララ杉田505号室

参加費: 1,500円

参加申し込みは武藤陽子にお願いいたします muto_gyosei@yahoo.co.jp

*5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願い致します(資料は後日お渡しします)

令和8年2月0日 文責: 武藤陽子・高木紀世子